

# 杉並区交流自治体福島県南相馬市「3.11」から10年

2021年3月11日、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から10年を迎えます。大きな被害を受けたまちの一つで、杉並区と災害時相互援助協定を結んでいる福島県南相馬市の今をお伝えします。

## 区民の支援が復旧・復興を大きく後押し

—南相馬からの感謝—

この人に聞きました



南相馬市観光交流課長  
武田 智芳さん

杉並区の皆さんからは、震災直後から現在まで、義援金や支援物資などの物的支援、災害ボランティア等の人的支援と、多くのご支援をいただき、感謝という言葉では足りないほどの気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から10年、復興はまだまだ道半ばではありますが、皆さんの力添えのおかげで一歩ずつ着実に進んでいます。令和2年3月には、JR常磐線が全線で再開。特急も復活し、東京—南相馬間を乗り換えなしで電車移動できるようになりました。ぜひ足を運んでいただき、南相馬の今をご覧になっていただければと思います。

震災で多くのものが失われましたが、反対に得たものも沢山あります。杉並区との交流拡大はその一つです。“交流”は目に見えないものですが、財産に値する、必要不可欠なものです。今後とも、より良い関係を築き、交流がますます広がるよう取り組んでまいります。

震災で多くのものが失われましたが、反対に得たものも沢山あります。杉並区との交流拡大はその一つです。“交流”は目に見えないものですが、財産に値する、必要不可欠なものです。今後とも、より良い関係を築き、交流がますます広がるよう取り組んでまいります。

## 絆を感じる毎日 —南相馬に勤める区職員—

この人に聞きました



杉並区危機管理対策課  
花岡 高行さん

南相馬市観光交流課に勤めている花岡です。南相馬への派遣は2度目、通算5年目で現在、震災にもコロナにも負けない伝統行事「相馬野馬追」を担当しています。

仕事の合間、市民の方から「杉並には本当にお世話になった。感謝してもしきれないよ」と言われるたび、南相馬市と杉並区との絆を強く感じ、背筋が伸びる思いです。震災から10年、復旧が進み、被災の跡が見えなくなる一方で、3月11日は、決して忘れてはならない震災のことを思い返す日にしたいと思います。



相馬野馬追に出陣する花岡さん



海岸では乗馬風景が見られる



義援金を活用した交流事業の様子



義援金で人工芝となった幼稚園



義援金でできた「杉並文庫」

杉並区民等義援金(現:みらい夢義援金)  
328件:約7億3,500万円 令和元年末時点

災害時相互援助協定に基づく区職員の中長期派遣者数  
延べ70人 令和元年末時点

## 震災から学ぼう

南相馬市消防・防災センターでは、市内の被害状況や災害対応等の記録、防災に関する情報などを展示しています。事前予約をすれば、職員による展示案内を受けます。大切な人や地域を守るため、被災地だからこそ得られた経験・知識を共有してみませんか。



所在地  
福島県南相馬市原町区高見町1-272  
駐車場40台  
開館時間  
9:00~17:00(最終入館16:30)  
休館日  
土・日曜日、祝日、年末年始  
予約先・問い合わせ  
南相馬消防署  
☎0244-22-2186

# すぎなみ交流ニュース

Suginami Cultural Exchange News

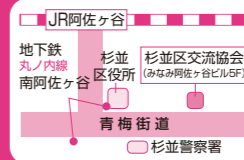
第59号  
2021年1月

스기나미 교류 소식  
杉並的交流消息

発行: 杉並区交流協会  
[Suginami Association for Cultural Exchange(SACE)]  
〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南1-14-2 みなみ阿佐ヶ谷ビル5階  
[Minami-Asagaya Bldg. 5F 1-14-2 Asagaya-Minami, Suginami-ku, Tokyo 166-0004 Japan]  
TEL.03-5378-8833 FAX.03-5378-8844 E-mail: info@suginami-kouryu.org

<http://www.suginami-kouryu.org/>

◆年4回発行◆ 協会情報誌は区内施設窓口、区内の駅広報スタンドなどに置いてあります。



HP・Facebook 随時更新!!



## 目次

海外文化セミナー  
ウズベキスタン  
..... 2~3

オンライン講座  
すぎなみフェスタ2020  
..... 3

杉並区交流自治体  
福島県南相馬市  
「3.11」から10年  
..... 4

# 第18回 日本語スピーチ大会 発表者募集

## 発表者募集

日本に住んで体験したこと、驚いたこと、自分の国とは違うことなどを、学んだ日本語を使って発表してくれる外国人の方を募集します。当日の観覧者も募集しています。

日時: 2021年3月13日(土)  
13:30~17:00

場所: 杉並区役所 中棟6F第4会議室  
(阿佐谷南1-15-1)  
JR総武線阿佐ヶ谷駅より徒歩7分、東京メトロ丸ノ内線南阿佐ヶ谷駅より徒歩1分

発表時間: 5分程度

発表者募集人数: 10名程度

テーマ: 日本に来て感じたこと、自分の国のことなど

賞品: 優秀賞などの他、参加者全員に記念品

締切: 2021年1月22日(金)  
(応募者多数の場合は選考し、1月末までにご連絡いたします。)

申込方法: 申込書(協会HPに掲載)を郵送、Fax、またはE-mailなどでお申込みください。

## 観覧者募集 (要申込)

日本で暮らしている外国の方のお話を聞いてみませんか? 外国の方が感じたこと、体験したこと、出身国のことなどについて発表します。

申込方法: 2月1日から申込受付。氏名(ふりがな)、住所、電話、お持ちの方はFax番号を記入して、電話、EメールまたはFaxで杉並区交流協会までお申し込みください。

昨年のスピーチ大会参加者



昨年の最優秀賞 ニアン チャンネットさん



# 外国人のための 無料専門家相談会

事前予約制

Free Professional Consultation for Foreign Residents

お気軽にご相談ください。ビザ・結婚・離婚・仕事・年金・保険・税金に関わる問題など、弁護士などの専門家が無料で相談をお受けします。

- ややくがひつようです。
- ひみつをまもります。
- つうやくがいます。
- ほいくがあります。



【日時】1月31日(日) 13:00~16:00  
【場所】セシオン杉並(杉並区梅里1-22-32)  
【専門家】弁護士・行政書士・税理士・社会保険労務士など  
【通訳】英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・タイ語・ネパール語(予定)  
【申込み】1月15日(金)までにメールか電話で杉並区交流協会へ

## 交流協会の会員になりませんか?

杉並区交流協会では、国内・国際交流の推進をはかるために、様々なイベントを企画しています。あなたも会員になって、楽しく交流しませんか?

**年会費**  
・個人会員 1,000円/年  
(9月以降入会の場合は初年度に限り500円)  
・法人会員 20,000円/年  
**会員期間**  
入会の月から3月31日まで(当年度末)

**会員特典**  
① イベントの情報や交流に関する情報紙 [交流ニュース(年4回発行)・NEWS LETTER(年8回発行)など] をお届けします。  
② 協会が実施するイベントに優先的に参加できる会員枠があります。  
③ イベント参加費に会員割引があります。

**申込方法**  
入会希望の方は杉並区交流協会まで電話・ハガキ・Fax・E-mailにより申込書類をご請求ください。

# 海外文化セミナー ウズベキスタン

11月28日(土)  
12:00~16:00  
於:セシオン杉並

杉並区は東京 2020 オリンピックに向けてウズベキスタン共和国とホストタウン交流宣言を交わし、そして 2021 年に延期されたオリンピック大会では、ウズベキスタンのボクシングチームを受け入れることになっています。

これを記念して、杉並区交流協会の今年度の「海外文化セミナー」では「ウズベキスタン」を取り上げ、文化、生活などを紹介しました。会場は、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じた上で、「ホール」では講演会やステージ発表、「展示室」では写真展や民族衣装、工芸品の展示に加えウズベキスタンの雑貨や食品などの物産販売も行われました。

●ステージでは、オープニングセレモニーの開催に先立ち、駐日ウズベキスタン共和国大使館の意向をうけ、ウズベキスタンと日本両国の架け橋となった映画製作への感謝の意を表してガイラト・ファジーロフ駐日ウズベキスタン大使から映画監督 黒沢清氏へ「TURIZM FIDOIYSI (トゥリズム・フィドイシ) 賞」(※)の授与式が行われました。

オープニングセレモニーでは、大使、区長の挨拶に続いて、高井戸小学校合唱団の児童44名による「ウズベキスタン国歌」(原語)が斉唱されました。閑かで厳かな調べで、初めて耳にするようなウズベク語の国歌を心を込めて歌いあげ、来場者から多くの拍手が送られました。

※TURIZM FIDOIYSI(トゥリズム・フィドイシ)賞  
ウズベキスタンのアジズ・アブドゥハキモフ副首相が議長を務めるウズベキスタン国家観光発展委員会が、観光分野において献身的な貢献をされた方をたたえる賞です。

●次は、駒崎万集さんの民族楽器ドゥタールのソロ演奏。駒崎さんは音楽大学を卒業後、青年海外協力隊でウズベキスタンのプハラに音楽の先生として派遣され、そこでドゥタールの音色に出会いました。そして今ではドゥタール奏者として国内外で活躍しています。

駒崎さんをここまで駆り立てた背景として「ウズベキスタン音楽」に助けられて」と語られ、楽器を演奏しながら歌う曲からはとても深い感情がうかがえました。そして語りかけるような繊細さや、激しくまたダイナミックな歌唱にも、二弦楽器ながらドゥタールの複雑な音色が豊かに組み合わせたり、駒崎さんの貴重な演奏に感動しました。加えて、ドゥタールという楽器が桑の木から作られていて、弦は絹製という材質からも、シルクロードならではの音楽が際だって美しく感じられました。



駒崎万集さんのドゥタール演奏と歌

●民族音楽の次は、中央アジア・シルクロード舞踊団「グリスタン」による民族舞踊を楽しみました。美しい衣裳をまとった踊り手の、テンポの



グリスタンによる民族舞踊

速い音楽に合わせて胡旋舞(高速回転しながら舞う)とよばれる独特のステップの楽しくコミカルなものや、美しくそして哀愁を感じさせる演目が次々と披露されました。長い三つ編みのダンサーや軽やかで色鮮やかな衣裳などとともに、今回の舞踊は、きっとウズベキスタンを強く印象づけたことと思います。



グリスタンによる民族舞踊

●講演は、展示室で「写真展・ウズベキスタン文化の魅力」で作品を展示する写真家秋野深さんによる、「ウズベキスタンってどんな国?」と題したものでした。

国の地理的環境、気候と植物、生活、人間性、宗教観、そして近代化に加速度をつけている現実などを「プチ旅行」のように、体験を通して様々な角度から紹介。ご自身の写真のエピソードもあって充実した内容でした。

特に「人々の温かさ」に触れ、最後にウズベク語「Yaxshimisiz?」(ヤクシミシズ/お元気ですか?)という挨拶の中のヤクシという単語を披露。「是非、いつか、何処かの機会にウズベキスタンの方にこちらからも温かい声をかけて交流の契機にしてください。」と講演を締め括りました。



秋野深さんの講演



秋野深さんの写真展

●展示室は「民族衣装の展示とリシタンの日本語教室・ノリコ学級の紹介」、「写真展・ウズベキスタン文化の魅力」そして「雑貨・食品・書籍の販売」という三つの部屋に仕切られ、来場者の関心を集めていました。それらはウズベキスタンの伝統や日常を理解するにはとても参考に

なる内容でした。そして「アトラス」という緋織りの布、とても細かく描かれた文様の陶芸品、「ノン」というパン、コクのある蜂蜜などからは、生活感が直接伝わってきました。(広報・Y)



民族衣装



民族衣装(ダンサー)



ノリコ学級の紹介



物産販売 陶器

## ★ 来場者の声

★ ウズベキスタンについて、国名以外何も知りませんでした。このセミナーを通じ、音楽、踊り、民族衣装がとてもきれいで、やがて美しいことが分かりました。

★ 昔から訪れてみたいと思っていたのですが、綺麗な写真や見慣れない食物の物販を通じ、改めてウズベキスタンに興味を持ちました。

## オンライン講座

新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年4月~8月の間は多くの事業を中止せざるを得ない状況が続きましたが、10月以降はオンラインによる講座等を開催した結果、幅広い年齢層の区民と外国人(13か国・地域)の参加があり、オンラインを活用して交流の輪が広がりました。

### ① オンラインやさしい日本語講座

10月2日(金)、10月9日(金)開催  
参加者27人(外国人ボランティア5人含む)

### ② みんなでオンライン体操

10月13日(火)開催  
参加者20人  
(外国人18人含む)



### ③ オンライン留学生と交流しよう

10月30日(金)開催  
参加者24人(外国人9人含む)

### ④ オンライン餅つき(名寄市協力)

11月6日(火)開催  
参加者42人  
(外国人29人含む)



## すぎなみフェスタ2020 [11月7日(土)、8日(日) 於: 桃井原っぱ公園等]



杉並区の大イベント「すぎなみフェスタ2020」がコロナ禍の中、11月7日(土)と8日(日)の2日間で開催されました。会場入口において検温と手の消毒を実施し、会場内は全員がマスク姿といった、これまでとは少し様子が異なるフェスタとなりました。

交流協会は「台湾カフェ」を出店し、紹興酒や台湾ビール、台湾のお菓子等を販売しました。お店は大勢のお客様で賑わい最終日にはほぼ完売状態になりました。

また、会場では様々なイベントが開催され、昼時には食べ物ブースの前はどこも長蛇の列ができ、特にイランやパラグアイのブースは大人気となりました。

農業祭では毎年恒例の宝船と花のオブジェが来場者をお迎えし、区内の農家さんが自慢の品を持ち寄り品評会や即売会などを実施。また、地産地消をテーマにしたブースでは野菜にちなんだクイズを実施。初日だけとなってしまいましたが、杉並区農福連携農園で収穫したサツマイモを賞品としてプレゼント。こちらも大勢のお客様で賑わっていました。

今年度は新型コロナウイルスの影響で、区役所での交流自治体物産展の回数は減少しましたが、フェスタには、名寄市、北塩原村、南相馬市、青梅市、南伊豆町の参加があり、自慢の秋野菜のほか、それぞれの地域の特産品が販売されていました。

また、交流自治体物産展前では、「なよろもち大使」によるもちつきの名人技の披露があり、日本一のもち米生産地である名寄市のPRを行っていました。

ほかにも、オリパラのブースでは空手の選手が競技インストラクターとして競技し、子供も大はしゃぎでした。イベント会場では、日本フィルハーモニー交響楽団の演奏や、各団体の歌、踊り、演奏で盛り上がっていました。

桃井第一小学校体育館は、小千谷市からお借りした段ボール迷路の会場でした。当日はコロナ対策のために入場者を50人に制限し、入場前検温や手の消毒を実施しました。体育館の中では迷路から抜け出そうと大奮闘している楽しそうな子供たちの声が聞こえていました。一日中美味しいものや楽しいものが沢山集まり、多くの人で賑わっていました。(広報・0)



オープニングセレモニー



協会ブース